

①  
ペイダウン実施!  
次に何が起こる?  
Salaryworker Homeless

【勝魂大吉】 経営能力のない社長や理事長ほど、かつては人気のあつた重役だった。いつも最善の注意を払って人の心をくすぐっていたからだ。真に会社盛り立てに真剣な人間は現状の矛盾に敏感だから、改善するにはこうしなきゃ、といつも考える。それを同僚や上司に言うところが上役には度量がないのが多いから、そんな直訴が来たら、こいつ刃向かうなとか思わない。あいつは不満分子ですよ、といったごますり組みの意見で左遷したりする。

他方、会社思いの人間は、保身センスに欠けていることが多く、飲み会でも、こんなことやつていいのかな、会社はいま、ピンチだけ、などと話題にするから、愉快なことしか話題にしたがらないグループからは外される。奴らから、後ろ指をさされて、あいつは暗いよ、会社への不満ばかり言う、と上司にまた告げ口される。つまり、人員整理のとき、真つ先に白羽の矢を立てるのは、あいつですよ、というわけだ。社長や理事長はそういう、ごますりグループが動いて選ばれる。

一見、人格円満だ。彼になってよかつたと、女の子は言っている。ところが程なく出てくるのが給料カットの話。資金繰りの妙案があるわけでもなく、不良債権の処理、つまり貸し売りの処理なんか、あつという間に何億と損をして片づけたあとで、社員の犠牲を強いてくる。女の子はさつさと辞めて、派遣会社に、結婚に。変わり目が早い。失業保険もらつて、海外旅行に出かける奴もいる。

都内のある名門大学でもこんな現象が起こった。

天下りで就任した理事長が給料カットをやつたのだ。言い出したのは国立大学から天下りで来た官僚肌の教授で、この男が学長と理事長を兼務し、事務局長も文科省からの天下りの官僚だった。今どき国からの補助金など当てにする時代でもないのに、文科省の役人をひっぱつておくと、甘い汁が吸えるという、私学の乞食根性を悪用して、文科からは毎年多量のロートルが私大に流れ込んでいる。これは文科が悪いと言うより、私大が、学生には立派なことを行つておきながら、自分たちは官民癒着のパイプラインで補助金の出る大型機器を購入し、業者とも癒着して身入りを増やす構造があるからだ。文科官僚はこの卑劣根性を逆手に取り、最高の給与をもらつて、官僚時代に上り詰めなかつた憂さ晴らしに理事長室で偉そうに振る舞い、ひなたぼっこに耽る。こうした手合いは在任中、ほんとは何にもしない。月給と退職金泥棒に徹する。

だから常任理事室にはファイル棚一つない。あつてもファイル一つない。そんな男が思いつくのはトイレの電気を消せとか、給料一律ダウンとか、個人研究費のダウンとか、寝ていても思いつく小手先の戦術しかない。